

- 過去の電気通信事故の発生状況、最近の技術動向、事故対処に係る態勢構築状況等を踏まえ、令和7年度の年次計画（案）における**重点確認項目を整理**する。

※NTT東西、NTTコミュニケーションズ、NTTドコモ、KDDI、ソフトバンク、楽天モバイルの7者

（１）仮想化技術に関連する取組状況

各社においてネットワークの仮想化が進められ、その運用に当たって設定誤りがサービス停止につながるといった事故が発生している実態を踏まえ、仮想化技術の導入に係るリスク分析状況、実装状況及び事故の発生防止・復旧早期化のための取組状況を以下の項目を中心に確認する。

- ① 仮想化技術の導入に係るリスク分析状況
- ② 仮想化技術の実装状況
- ③ 仮想化技術に関連する事故の発生防止・復旧早期化のための取組
 - ア 仮想化機能への資源（CPU、メモリ等）の適切な割振り及びその監視
 - イ 仮想化基盤の冗長化等による安定性の向上
 - ウ 故障箇所・内容の速やかな特定
 - エ 仮想化技術に関連する教育・手順書整備

（２）事故の発生防止・復旧早期化のための訓練の実施状況

工事の手順間違いや社内関連部署間の連携不足といった人的な要因による事故が発生している実態を踏まえ、事故の発生防止・復旧早期化のための各種訓練の実施状況、新しい事故事案や技術動向を踏まえた訓練内容の見直し状況を確認する。

- ① 各種訓練の実施状況
 - ア 応急復旧措置に係る訓練
 - イ 広報含む社内関連部署間の連携訓練
 - ウ 全社一斉訓練
 - エ シナリオを共有しない訓練
- ② 新しい事故事案や技術動向を踏まえた訓練内容の見直し状況

（3）事故の再発防止策の取組状況及び事故やヒヤリハット事例の活用体制

事故の発生防止・早期復旧のためには、自社において発生した事故やヒヤリハット事例を着実に踏まえた取組が重要となる。これまで自社において発生した事故に対して策定された再発防止策の実施状況を確認するとともに、事故やヒヤリハット事例を分析し、事故の発生防止・早期復旧につなげる仕組みの整備状況を確認する。

- ① 事故の再発防止策の実施状況
 - ア 設備の見直し等の状況
 - イ 手順書改定・メーカーとの連携強化等の状況
- ② 事故やヒヤリハット事例の分析・活用に関する仕組みの整備状況
 - ア 事故や事例に関する情報の収集・記録
 - イ 事故や事例に関する分析
 - ウ 設備見直し・手順書改定等への反映
 - エ その他事故や事例を着実に活用するための工夫